



インドネシア国家研究イノベーション庁 ハンドコ長官訪問等



一般社団法人サイバースマートシティ創造協議会 (MCSCC) 豊崎禎久・橋本剛両代表理事及び会員企業関係者は、11月30日、インドネシア共和国の国家研究イノベーション庁(BRIN)のハンドコ長官と会談し、全面的な協力をいただけることとなりました。同庁は新設の組織で、インドネシア共和国のあらゆる政府系R&Dを統括しています。

これは、経済産業省の令和3年度「質の高いインフラの海外展開に向けた事業実施可能性調査事業 (我が国企業によるインフラの海外展開促進調査事業)」において、MCSCC提案の「インドネシア(バリ島) スマートシティ開発に向けたスマートモビリティ・インフラ開発調査事業」が採択され(2021年4月22日同省公表)、11月25日深夜に出発して現地調査を行った一環のものです。具体的には、EV特区が設けられるバリ州サヌール及びヌサペニダでの調査となりました。

現地調査には、このほか国家技術評価応用庁の工ニア元次官が合流し、さまざまな意見交換を行ったほか、バリ州政府、バリ州の州都デンパサール市政府関係者などとの意見交換も行いました。また、国営電力企業PLNやサヌール(画像下)の起業家、観光関係者、運輸関係者等さまざまな企業とも今後の連携を見据え対話してまいりました。経済産業省との調整を踏まえつつ、今後ともご紹介してまいります。



MCSCC関連寄稿連続掲載

MCSCCの豊崎禎久代表理事がAGD(アーキテクトランドデザイン株式会社)として寄稿した記事が『週刊エコノミスト』(毎日新聞社)11月30日号に「ファーウェイが狙うEV覇権 通信と半導体で一步リード」と題して掲載されました。また、橋本剛代表理事の寄稿記事が『地方行政』(時事通信社)10月18日号に特集記事「スマート田舎のすすめ」と題して掲載されました。



SCIウェビナー登壇

MCSCCの豊崎禎久・橋本剛両代表理事がスマートシティ・インスティテュート(SCI)のウェビナー「スマートシティ101」に登壇し、「スマート田舎のすすめ」のテーマでレクチャーを行いました。長崎での模索、島根県益田市での実証実験、長崎のスマートビレッジ、インドネシア・サヌールでの取組を紹介しています。なお、レクチャーの録画YouTubeのリンクは上のQRコードです。



Smart City Institute Japan

SCI-JapanウェビナーシリーズA 『スマートシティ101』

スマート田舎のすすめ

2021年11月25日(木) 18:00-19:15
参加無料(事前登録制)

講師: 橋本剛氏 (MCSCC代表理事), 豊崎禎久氏 (MCSCC代表理事), 南雲岳彦氏 (MCSCC代表理事)